

原 著

養護教諭の役割遂行における満足度と自信度に関する研究

池畠千恵子^{1*}, 大西 昭子², 梶本 市子³, 山崎美恵子⁴

要約：養護教諭の役割遂行における満足度と自信度を明らかにし、看護基礎教育をベースとした養護教諭養成のあり方を検討することを目的とした。そこで、A県の現職養護教諭396名を対象に、郵送による無記名自記式質問紙調査を行い、143名の有効回答を得た。

職務については満足と回答したものが全体で71.6%であった。看護学系が75.7%、その他の学問系は68.2%が満足であったが、有意差は認められなかった。職務に満足しているものは、「健康相談活動 (p=0.010)」、「保健室経営 (p=0.011)」、「人間関係 (p=0.000)」に自信がある割合が有意に高かった。

経験年数では11年以上の者は「保健室経営(p=0.031)」について自信がある割合が有意に高かった。「保健組織活動」に対する自信度では、保健師免許を有する者で有意差が見られた (p=0.046)。救急処置は全体で21.7%が自信がないと認識していた。「救急処置」に自信ありと回答したものが看護学系は82.6%、その他の学問系は77.9%であり、有意差は認められなかったがやや看護学系が高率であることが明らかになった。

キーワード：養護教諭，役割遂行，満足度，自信度

I. はじめに

中央教育審議会スポーツ・青少年分科会健康・安全部会は平成20年1月17日に、学校保健の充実を図るための方策として、学校保健に関する校内の体制の充実に向けて、「養護教諭は学校保健活動の中核的な役割を果たしており、現代的な健康課題の解決に向けて重要な責務を担っている。」¹⁾と答申した。また、養護教諭の職務については、学校教育法で児童の養護をつかさどると定められている。平成20年1月には保健体育審議会答申において、養護教諭の役割及び職務として、保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、

組織活動などが示された²⁾。

本大学は平成20年度より看護学科の新設により、養護教諭2種の免許取得が可能となり、さらに平成23年度より専攻科地域看護学専攻の設置により養護教諭1種の免許取得が可能となった。

現在、養護教諭の資格取得の方法は複雑多様化しており、教育背景は様々である。平成20年4月1日現在、養護教諭免許取得ができる養成機関は、全国で国公立と私立を合わせて大学院(48)、大学(95)、短期大学(23)、大学専攻(1)、短期大学専攻(3)、指定教員養成機関(7)、通信課程(4)がある。課程認定を受けている大学の学部の名称では、教

^{1*}高知学園短期大学 看護学科 Email: ikebata@kochi-gc.ac.jp

²高知学園短期大学 専攻科 地域看護学専攻 Email: aoonishi@kochi-gc.ac.jp

³高知学園短期大学 看護学科 Email: ikajimoto@kochi-gc.ac.jp

⁴高知学園短期大学 専攻科 地域看護学専攻 Email: myamasaki@kochi-gc.ac.jp

育学部・医学部・看護学部・歯学部・体育学部・栄養学部・学芸学部・生活科学部・心身科学部・人文学部・人間科学部・人間福祉学部などがある。これらの名称は、年々、多様化する傾向があり、開放性によって各大学の個性的な教員養成が保障される一方で、養護教諭養成を支える学問の姿が見えにくくなってきていることが指摘されている。

養護教諭の仕事への満足度については、豊島他による自己効力感の要因に関する先行研究はあるが、学問系別の比較についてはなされていない。そこで、養護教諭の役割遂行における満足度と自信度を明らかにし、さらに看護学系とその他の学問系を比較することによって、看護基礎教育をベースとした養護教諭養成のあり方を検討した。

II. 研究目的

養護教諭の役割遂行における満足度と自信度を明らかにし、さらに看護学系とその他の学問系を比較することによって、看護基礎教育をベースとした養護教諭養成のあり方を検討する。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、質問紙票を用いた量的研究である。

2. 用語の定義

看護学系とは、看護学をベースとした教育背景をもつ学問系とした。この項目には、看護系大学、看護系短期大学、養護教諭特別別科、看護系専門学校を含むこととした。

教育学系とは、教育学をベースとした教育背景をもつ学問系とした。この項目には、教育学系大学を含むこととした。

その他の学問系とは、看護学および教育学以外（医学部・歯学部・体育学部・栄養学部・学芸学部・生活科学部・心身科学部・人文学部・人間科学部・人間福祉学部など）の学問分野をベースとした教育背景をもつ学問系とした。この項目には、看護学および教育学系以外の大学、短期大学、専

門学校を含むこととした。

養護教諭の職務における得意および不得意な内容で用いた職務内容とは、平成20年の保健体育審議会答申²⁾で示されている養護教諭の主要な役割項目を修正加筆した。なぜならば、看護学系とその他の学問系では看護学の占める履修単位数が大きく違うことから、救急処置、健康診断、疾病の予防などの保健管理をそれぞれ独立させて7項目（救急処置、健康診断、疾病の予防などの保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動）を用いた。

養護教諭の職務に関する自信度に関する要因としては、平成20年の保健体育審議会答申の5項目から、保健管理に関しては回答者のイメージによって自信度に影響されやすいことから除外した。しかし、看護学系とその他の学問系ではカリキュラムの違いがあることから救急処置を項目に加えた。また、豊島他³⁾によると満足度に職場の人間関係が影響している（ $p=0.001$ ）ことが明らかにされていることから学校内での人間関係を加えた。さらに、保健教育を健康教育とした理由は、保健・安全・食育を包括して捉えるために健康教育とし、6項目（救急処置・健康教育・健康相談活動・保健室経営・保健組織活動・学校内での人間関係）を設定した。

3. 対象者

A 県内の国公立および私立小・中・高等学校、国公立特別支援学校に勤務する養護教諭396名を対象とした。

4. 調査期間

平成22年3月8日～3月末

5. 調査方法及び調査内容

1) 調査方法

A 県の A 市以外については、養護教諭宛に調査に関する目的や方法を記載した依頼文とアンケート用紙を郵送した。A 市においては A 市教育委員会の許可を得た後、学校長、養護教諭宛に

調査に関する目的や方法を記載した依頼文とアンケート用紙を郵送した。調査方法は無記名自記式質問紙調査法で、回答形式は選択式および自由記述式とした。アンケートの返信を持って同意を得られたものとみなした。

2) 調査内容

(1) 基本属性

本人の属性に関わる項目として、経験年数、有資格、学問系教育背景をとりあげた。

(2) 勤務場所に関する調査項目

勤務校の種別、兼務の有無、学校の設置主体、児童・生徒数、養護教諭の複数配置の有無、保健主事について、すべての対象者に質問した。

(3) 養護教諭の役割遂行に関する調査項目

職務に関する満足度、学校で最も重視している職務、得意な役割、不得意な役割、養護教諭の役割遂行についての自信度をすべての対象者に質問した。

6. 分析方法

回収された調査票に回答があったもの全員を対象に、今回の分析対象者の特徴を把握した。次に、対象者を看護系とその他の学問系(教育学を除く)の2群に分け、養護教諭の職務に対する自信度、満足度、得意・不得意な項目など養護教諭の役割遂行に関する項目の比較検討を行った。2群間の分析に当たっては、教育学系は11名と分析対象者が少なく、検定結果の正確さに支障が生じるため、教育学系は分析対象から除外し、看護学系とその他の学問系を総数として今回の検定を行った。

この際、自信度については、十分自信がある・自信がある・少し自信があると回答したものを「自信あり」とし、あまり自信がない・まったく自信がないと回答したものを「自信なし」として分析を行った。満足度については、満足・やや満足と回答したものを「満足」とし、やや不満足・不満足と回答したものを「不満足」として分析を行った。さらに、養護教諭の職務に対する自信度に関して満足度や経験年数、得意・不得意な職務、

有資格別に、また得意・不得意については、学校種別との比較検討を行った。

統計学的検討については比率の有意差検定には χ^2 検定を行い、5以下の数値の場合にはFisherの直接確立計算法を用いた。なお、調査票の集計、分析にあたっては、統計ソフト SPSS Statistics Ver.19.0 for Windows を使用した。

7. 倫理的配慮

本研究は高知学園短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号第16号)。

調査にあたっては、研究の目的および方法、プライバシーの保護と匿名性の保持について、回答にあたっては自由意志を尊重すること、データは研究目的以外には使用しないことなどを明記した依頼文をアンケート用紙と共に送付することによって説明を行った。回答は無記名とし、アンケート用紙は同封した返送用封筒にて回収を行った。なお、研究成果は回答者個人が特定されない形で公表することを文書で示し、アンケート用紙の返送をもって説明内容の了承とし、回答をもって同意を得たものとした。説明分析にあたっては、個人名が特定できないように配慮し、プライバシーの保護を厳守した。得られたデータは、研究者が責任を持って管理し、データの保管には施錠を徹底した。

IV. 結果

対象となった養護教諭396名のうち、143名からの有効回答(回答率36.1%)を得た。

養護教諭の役割遂行における満足度と自信度および看護学系とその他の学問系を比較検討し、以下のような結果が得られた。

1. 対象者の概要(表1)

1) 経験年数

養護教諭143名の経験年数は1～2年が8名(5.6%)、3年～10年が16名(11.2%)、11年以上は119名(83.2%)であった。経験年数が10年以下は24名(16.8%)、11年以上は119名(83.2%)

であった。

2) 免許の種類 (複数回答)

現在持っている免許の種類は、養護教諭1種が113名(79.0%)、養護教諭2種が41名(28.7%)、看護師が17名(11.9%)、保健師が13名(9.1%)、その他が2名(1.4%)であった。

3) 教育背景

教育背景では大学卒業が30名(21.0%)、短期大学卒業が90名(62.9%)、養護教諭特別別科卒業が15名(10.5%)、専門学校卒業が8名(5.6%)であった。

大学教育の学問領域別では、看護学系46名(32.2%)、教育学系11名(7.7%)、その他の学問系は86名(60.1%)であった。

看護学系の内訳は、大学が8名(17.4%)、短期大学が16名(34.7%)、養護教諭特別別科が15名(32.6%)、専門学校が7名(15.3%)であった。

養護教諭の教育背景については看護学系が46名(32.2%)、教育学系11名が(7.7%)、その他の学問系が86名(60.1%)であった。

表1. 対象者の属性 n=143

項目	カテゴリー	人数	%
経験年数	1～2年	8	5.6
	3～10年	16	11.2
	11年以上	119	83.2
免許の種類 (複数回答)	養護教諭1種	113	79.0
	養護教諭2種	41	28.7
	看護師	17	11.9
	保健師	13	9.1
	その他	2	1.4
教育背景	看護系大学	8	5.6
	教育系大学	11	7.7
	養護教諭特別別科	15	10.5
	その他大学	9	6.3
	看護系短期大学	16	11.2
	その他短期大学	76	53.1
	看護系専門学校	7	4.9
	その他専門学校	1	0.7

2. 養護教諭の職務に関する満足度と自信度

1) 養護教諭の学問分野と職務に対する満足度

養護教諭の教育背景を看護学系とその他の学問系(教育学系を除く)の2つの群に分類し、職務に対する満足度との比較分析を行った。その結果

は、表2・図1のとおりであった。看護学系の教育背景を持つ養護教諭のうち、現在の職務に対して、満足と回答したものが34名(75.6%)で、どちらでもないが5名(11.1%)、不満足と回答したものは6名(13.3%)であった。

その他の学問系では、満足と回答した者が58名(68.2%)で、どちらでもないが22名(25.9%)、不満足と回答した者は5名(5.9%)であった。

看護学系とその他の学問系の教育背景別2群間では、職務に対する満足度に有意差は認められなかった。

全体では、現在の職務に対して、満足と回答したものが101名(71.6%)で、どちらでもないが28名(19.9%)、不満足と回答したものは12名(8.5%)であり、満足している養護教諭は7割を超えていることがわかった。

表2. 養護教諭の学問分野と職務満足度(%) n=141

学問分野	満足	どちらでもない	不満足
全体	101(71.6)	28(19.9)	12(8.5)
看護学系	34(75.6)	5(11.1)	6(13.3)
その他の学問系	58(68.2)	22(25.9)	5(5.9)

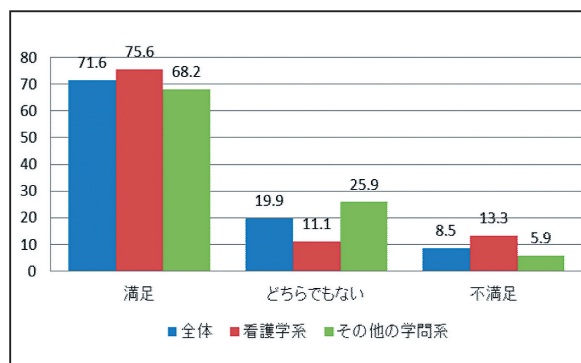


図1. 職務に対する満足度(%)

2) 養護教諭の学問分野と職務に対する自信度

養護教諭の役割遂行について、教育背景を看護学系とその他の学問系(教育学系を除く)の2つの群に分類し、6つの職務項目に対してそれぞれの自信度について学問分野別に分析を行った。その結果、表3・図2のとおりであり、2群間での職務自信度に関して有意差は認められなかった。

また、看護学系の教育背景を持つ養護教諭が、

自信があると回答した割合が高かった順に「保健室経営」が42名（89.1%）、「人間関係」が41名（89.1%）、「健康教育」が40名（87.0%）、「救急処置」が38名（82.6%）、「健康相談活動」が37名（80.4%）、「保健組織活動」が29名（63.0%）であった。

その他の学問系の教育背景を持つ養護教諭は、自信があると回答した割合が高い順に、「保健室経営」が80名（93.0%）、「人間関係」が78名（90.7%）、「健康教育」が75名（88.2%）、「健康相談活動」が74名（86.0%）、「救急処置」が67名（77.9%）、「保健組織活動」が48名（55.8%）であった。

全体的に自信があると回答した職務項目についてみると、「健康教育」や「健康相談活動」、「保健室経営」、「人間関係」が80%を超えているのに対し、養護教諭の職務である「救急処置」については自信ありと回答したものが77.6%、「保健組織活動」では59.4%と6割を下回っており低かった。

表3. 養護教諭の学問分野と職務自信度(%) n=143

	全体		看護学系 n=46		その他の学問系 n=86	
	自信あり	自信なし	自信あり	自信なし	自信あり	自信なし
救急処置	111(77.6)	31(21.7)	38(82.6)	8(17.4)	67(77.9)	19(22.1)
健康教育	123(86.0)	18(12.6)	40(87.0)	6(13.0)	75(88.2)	10(11.8)
健康相談活動	120(83.9)	23(16.1)	37(80.4)	9(19.6)	74(86.0)	12(14.0)
保健室経営	131(91.6)	12(8.4)	42(89.1)	5(10.9)	80(93.0)	6(7.0)
保健組織活動	85(59.4)	58(40.6)	29(63.0)	17(37.0)	48(55.8)	38(44.2)
人間関係	129(90.2)	14(9.8)	41(89.1)	5(10.9)	78(90.7)	8(9.3)

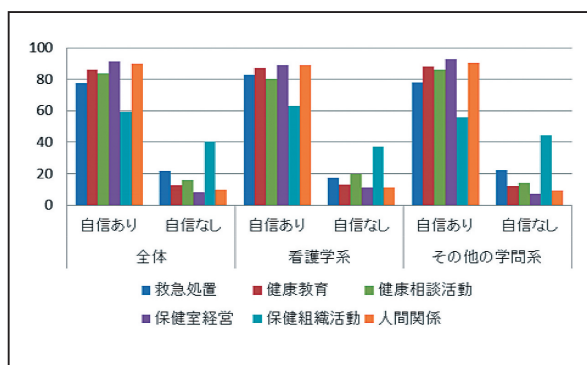


図2. 職務に対する自信度(%)

3. 養護教諭の学問分野と得意な職務および不得意な職務

学校における養護教諭の職務を7つの項目に分け、得意な項目または不得意な項目を選択してもらい、さらに教育背景を看護学系とその他の学問系（教育学系を除く）の2つの群に分類し、7つの職務項目に対してそれぞれ自信度について学問分野別に分析を行った。その結果、看護学系の教育背景を持つ養護教諭が、得意と回答した割合が高かった順にみると、表4・図3のとおり、割合がもっとも高かったのは「健康相談活動」で23名（51.1%）、次に「保健教育」が19名（42.2%）、「救急処置」が17名（37.8%）、「健康診断」、「保健管理」、「保健室経営」がそれぞれ11名（24.4%）、「保健組織活動」が5名（11.1%）であった。

その他の学問系では、もっとも得意とする割合が高かったのは「健康相談活動」で46名（54.1%）、次に「保健室経営」が33名（38.8%）、「保健教育」が29名（34.1%）、「保健管理」が27名（31.8%）、「健康診断」が23名（27.1%）、「救急処置」が22名（25.9%）、「保健組織活動」が7名（8.2%）であった。看護学系では、「救急処置」が上位にきているのに対し、その他の学問系では、「保健室経営」が上位にある傾向がみられた。比較検討の結果、看護学系を教育背景に持つ養護教諭は、その他の学問系と比較して、「保健室経営」を得意（ $p=0.099$ ）とするものの割合が低い傾向にあることがわかった。

また、不得意な職務では、表5・図3のとおり、看護学系の養護教諭は、「保健組織活動」20名（48.8%）、「保健教育」9名（22.0%）、「救急処置」6名（14.6%）、「健康相談活動」5名（12.2%）の順に回答した割合が高く、その他の学問系においても上位4つまでは同様の結果であった。しかし、看護学系の養護教諭は「保健管理」を不得意と回答したものがもっとも少なかったのに対し、その他の学問系では「健康診断」であった。比較検討の結果、看護学系の養護教諭は「保健管理」を不得意（ $p=0.055$ ）と回答したものの割合が低い傾向にあった。

全体的にみると得意な職務でもっとも多かったのは「健康相談活動」で69名(53.1%)、次に「保健教育」で48名(36.9%)であった。得意と回答したものの割合がもっとも少なかったのは「保健組織活動」で、12名(9.2%)であった。不得意な職務では、「保健組織活動」がもっとも多く62名(50.8%)であった。

また、「救急処置」について不得意と答えた割合は表5のとおり看護学系が6名(14.6%)、その他の学問系が17名(21.0%)であり、全体で23名(18.9%)の結果であった。

表4. 学問分野別の得意な職務(%) n=140

	全体	看護学系	その他の学問系
救急処置	39(30.0)	17(37.8)	22(25.9)
健康診断	34(26.2)	11(24.4)	23(27.1)
保健管理	38(29.2)	11(24.4)	27(31.8)
保健教育	48(36.9)	19(42.2)	29(34.1)
健康相談活動	69(53.1)	23(51.1)	46(54.1)
保健室経営	44(33.8)	11(24.4)	33(38.8)
保健組織活動	12(9.2)	5(11.1)	7(8.2)

p=0.099

表5. 学問分野別の不得意な職務(%) n=132

	全体	看護学系	その他の学問系
救急処置	23(18.9)	6(14.6)	17(21.0)
健康診断	2(1.6)	2(4.9)	0(0.0)
保健管理	16(13.1)	2(4.9)	14(17.3)
保健教育	27(22.1)	9(22.0)	18(22.2)
健康相談活動	20(16.4)	5(12.2)	15(18.5)
保健室経営	10(8.2)	4(9.8)	6(7.4)
保健組織活動	62(50.8)	20(48.8)	42(51.9)

p=0.055

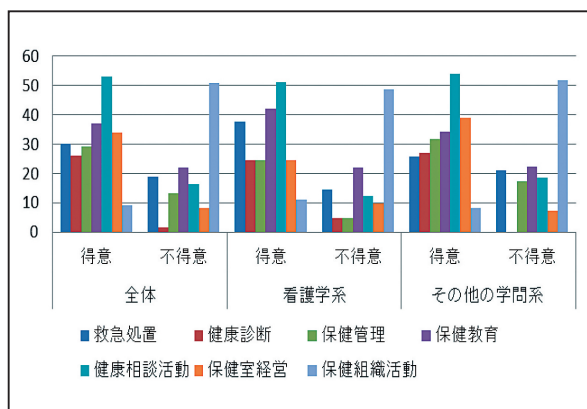


図3. 学問分野別の職務の得意・不得意(%)

4. 養護教諭の学問分野と重視している職務

学校において、もっとも重視している職務は、表6のとおり、全体では「健康相談活動」がもっとも多く38名(28.4%)、次に「保健室経営」が36名(26.9%)、そして「保健教育」が18名(13.4%)、「救急処置」15名(11.2%)、「保健管理」12名(9.0%)、「健康診断」6名(4.5%)、もっとも少なかったのは「保健組織活動」で4名(3.0%)であった。看護学系とその他の学問系で、重視している職務内容には有意差がみられなかった。

看護学系では、「健康相談活動」の11名(25.6%)がもっとも多く、次いで「保健室経営」が10名(23.3%)であった。もっとも少なかったのは「保健組織活動」の0名(0.0%)であった。また、その他の学問系でも同様に「健康相談活動」が24名(29.6%)でもっとも多く、次に「保健室経営」22名(27.2%)が続いていた。その他の学問系では、「健康診断」1名(1.2%)がもっとも少ない結果であった。

養護教諭の重視している職務では、得意とする職務や不得意な職務として回答した内容とはほぼ同様の結果が得られた。

表6. 学問分野別の学校でもっとも重視している職務(%)

	全体 n=134	看護学系 n=43	その他の学問系 n=81
救急処置	15(11.2)	5(11.6)	10(12.3)
健康診断	6(4.5)	4(9.3)	1(1.2)
保健管理	12(9.0)	4(9.3)	8(9.9)
保健教育	18(13.4)	6(14.0)	11(13.6)
健康相談活動	38(28.4)	11(25.6)	24(29.6)
保健室経営	36(26.9)	10(23.3)	22(27.2)
保健組織活動	4(3.0)	0(0.0)	3(3.7)
その他	5(3.7)	3(7.0)	2(2.5)

5. 職務に対する満足度と自信度の関係

職務に対する満足度と自信度の関係では、表7・図4のとおり、現在の養護教諭の仕事に対して満足しているものは不満足なものより、「健康相談活動」(p=0.010)や「保健室経営」(p=0.011)、「人間関係」(p=0.000)に自信ありと答える割合が有意に高かった。

また、満足と回答したものは、「保健組織活動」以外の職務についてはすべて自信ありと答えたものの割合が80%以上であったが、不満足と答えたものでは、自信があると答えたものの割合がどの職務も75%以下にとどまっていた。

表7. 職務に対する満足度と自信度の関係(%) n=112

		満足	不満足	
救急処置	自信あり	82(82.0)	9(75.0)	
	自信なし	18(18.0)	3(25.0)	
健康教育	自信あり	88(88.0)	9(75.0)	
	自信なし	12(12.0)	3(25.0)	
健康相談活動	自信あり	91(90.1)	7(58.3)	p=0.010
	自信なし	10(9.9)	5(41.7)	
保健室経営	自信あり	95(94.1)	8(66.7)	p=0.011
	自信なし	6(5.9)	4(33.3)	
保健組織活動	自信あり	59(58.4)	7(58.3)	
	自信なし	42(41.6)	5(41.7)	
人間関係	自信あり	96(95.0)	6(50.0)	p=0.000
	自信なし	5(5.0)	6(50.0)	

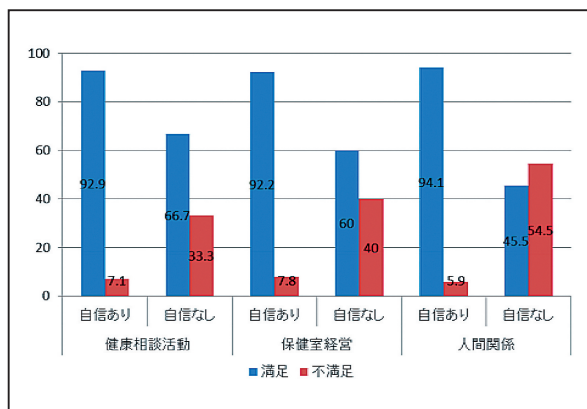


図4. 職務に対する満足度と自信度 (%)

6. 養護教諭の経験年数と職務に対する自信度の関係

養護教諭の経験年数と職務に対する自信度を検討した結果、表8・図5のとおり、「保健室経営」に自信ありと答えたものは、経験年数10年以下のものが19名(79.2%)、11年以上のものが112名(94.1%)であった。経験年数が11年以上ある養護教諭は「保健室経営」に自信がある割合が有意に高かった(p=0.031)。また「健康相談活動」で自信ありと答えたものは、経験年数10年以下が17名(70.8%)、11年以上では103名(86.6%)で

あり、経験年数が11年以上の養護教諭は「健康相談活動」に自信がある割合が高い傾向にあった(p=0.060)。

表8. 養護教諭の経験年数と職務自信度(%) n=143

		10年以下	11年以上	
救急処置	自信あり	18(75.0)	93(78.8)	
	自信なし	6(25.0)	25(21.2)	
健康教育	自信あり	21(87.5)	102(87.2)	
	自信なし	3(12.5)	15(12.8)	
健康相談活動	自信あり	17(70.8)	103(86.6)	p=0.060
	自信なし	7(29.2)	16(13.4)	
保健室経営	自信あり	19(79.2)	112(94.1)	p=0.031
	自信なし	5(20.8)	7(5.9)	
保健組織活動	自信あり	11(45.8)	74(62.2)	
	自信なし	13(54.2)	45(37.8)	
人間関係	自信あり	23(95.8)	106(89.1)	
	自信なし	1(4.2)	13(10.9)	

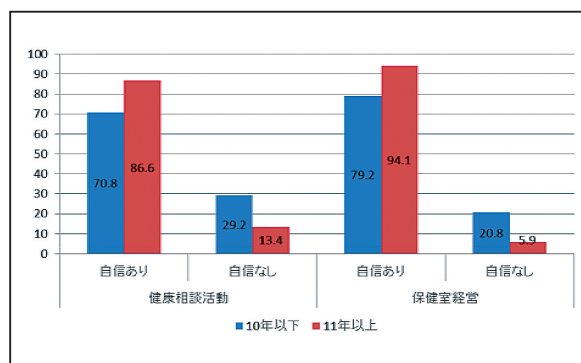


図5. 経験年数と職務の自信度 (%)

7. 養護教諭の職務に対する自信度と得意および不得意の関係

養護教諭の職務に対する自信度と得意および不得意の関係を検討した結果、表9・表10のとおりであった。「健康教育」に関する項目では、「健康教育」に自信ありと回答したもののうち、「保健教育」が得意と回答したものは51名(41.8%)であり、「健康教育」に自信がないものは「保健教育」が得意と回答したものが1名(5.9%)であった。「健康教育」に自信があると回答したもののほど、「保健教育」を得意とする割合が有意に高かった。(p=0.002) 反対に、「健康教育」に自信ありと回答したもので「保健教育」が不得意と回答したものは16名(14.2%)であり、「健康教育」に自信が

表9. 養護教諭の職務自信度と得意な職務との関係(%)

n=140

		全体	救急処置	健康診断	保健管理	保健教育	健康相談活動	保健室経営	保健組織活動
救急処置	自信あり	111(78.2)	37(33.6)**	30(37.3)	33(30.0)	39(35.5)	62(56.4)	38(34.5)	9(8.2)
	自信なし	31(21.8)	3(10.0)	6(20.0)	5(16.7)	13(43.3)	15(50.0)	9(30.0)	3(10.0)
健康教育	自信あり	123(87.2)	34(27.9)	31(25.4)	34(27.9)	51(41.8)**	67(54.9)	42(34.4)	12(9.8)
	自信なし	18(12.8)	6(35.3)	4(23.5)	3(17.6)	1(5.9)	10(58.8)	5(29.4)	0(0.0)
健康相談活動	自信あり	120(83.9)	35(29.4)	29(24.4)	30(25.2)	42(35.3)	74(62.2)***	42(35.3)	11(9.2)
	自信なし	23(16.1)	5(23.8)	7(33.3)	8(38.1)	10(47.6)	3(14.3)	5(23.8)	1(4.8)
保健室経営	自信あり	131(91.6)	37(28.9)	35(27.3)	36(28.1)	48(37.5)	72(56.3)	46(35.9) *	12(9.4)
	自信なし	12(8.4)	3(25.0)	1(8.3)	2(16.7)	4(33.3)	5(41.7)	1(8.3)	0(0.0)
保健組織活動	自信あり	85(59.4)	23(27.7)	26(31.3) △	21(25.3)	38(45.8) *	46(55.4)	25(30.1)	12(14.5) **
	自信なし	58(8.4)	17(29.8)	10(17.5)	17(29.8)	14(24.6)	31(54.4)	22(38.6)	0(0.0)
人間関係	自信あり	129(90.2)	38(30.2)	35(27.8) △	35(27.8)	47(37.3)	72(57.1)	43(34.1)	12(9.5)
	自信なし	14(9.8)	2(14.3)	1(7.1)	3(21.4)	5(35.7)	5(35.7)	4(28.6)	0(0.0)

△: p < 0.1, *: p < 0.05, **: p < 0.01, *** = p < 0.001

表10. 養護教諭の職務自信度と不得意な職務との関係(%)

n=132

		全体	救急処置	健康診断	保健管理	保健教育	健康相談活動	保健室経営	保健組織活動
救急措置	自信あり	111(78.2)	8(7.9)	1(1.0)	11(10.9)	23(22.8)	13(12.9)	7(6.9)	52(51.5)
	自信なし	31(21.8)	18(58.1)***	1(3.2)	6(19.4)	6(19.4)	7(22.6)	3(9.7)	15(48.4)
健康教育	自信あり	123(87.2)	22(19.5)	1(0.9)	14(12.4)	16(14.2)	17(15.0)	7(6.2)	56(49.6)
	自信なし	18(12.8)	4(22.2)	1(5.6)	3(16.7)	13(72.2)***	2(11.1)	3(16.7)	10(55.6)
健康相談活動	自信あり	120(83.9)	21(19.1)	1(0.9)	15(13.6)	23(20.9)	7(6.4)	6(5.5)	57(51.8)
	自信なし	23(16.1)	5(22.7)	1(4.5)	2(9.1)	6(27.3)	13(59.1)***	4(18.2) △	10(45.5)
保健室経営	自信あり	131(91.6)	23(19.2)	0(0.0)	16(13.3)	26(21.7)	18(15.0)	5(4.2)	63(52.5)
	自信なし	12(8.4)	3(25.0)	2(16.7) **	1(8.3)	3(25.0)	2(16.7)	5(41.7) **	4(33.3)
保健組織活動	自信あり	85(59.4)	17(23.0)	1(1.4)	9(12.2)	18(24.3)	11(14.9)	6(8.1)	26(35.1)
	自信なし	58(8.4)	9(15.5)	1(1.7)	8(13.8)	11(19.0)	9(15.5)	4(6.9)	41(70.7)***
人間関係	自信あり	129(90.2)	24(20.2)	1(0.8)	16(13.4)	27(22.7)	18(15.1)	8(6.7)	61(51.3)
	自信なし	14(9.8)	2(15.4)	1(7.7)	1(7.7)	2(15.4)	2(15.4)	2(15.4)	6(46.2)

△: p < 0.1, *: p < 0.05, **: p < 0.01, *** = p < 0.001

表11. 養護教諭の有資格と職務自信度の関係(%)

		養護教諭1種資格		養護教諭2種資格		看護師資格		保健師資格	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
		n=113	n=30	n=102	n=41	n=17	n=126	n=13	n=130
救急措置	自信あり	90(80.4)	21(70.0)	28(68.3) △	83(82.2)	16(94.1) △	95(76.0)	12(92.3)	99(76.7)
	自信なし	22(19.6)	9(30.0)	13(31.7)	18(17.8)	1(5.9)	30(24.0)	1(7.7)	30(23.3)
健康教育	自信あり	96(86.5)	27(90.0)	36(87.8)	87(87.0)	16(94.1)	107(86.3)	12(92.3)	111(86.7)
	自信なし	15(13.5)	3(10.0)	5(12.2)	13(13.0)	1(5.9)	17(13.7)	1(7.7)	17(13.3)
健康相談活動	自信あり	94(83.2)	26(86.7)	34(82.9)	86(84.3)	15(88.2)	105(83.3)	12(92.3)	108(83.1)
	自信なし	19(16.8)	4(13.3)	7(17.1)	16(15.7)	2(11.8)	21(16.7)	1(7.7)	22(16.9)
保健室経営	自信あり	103(91.2)	28(93.3)	37(90.2)	94(92.2)	17(100.0)	114(90.5)	13(100.0)	118(90.8)
	自信なし	10(8.8)	2(6.7)	4(9.8)	8(7.8)	0(0.0)	12(9.5)	0(0.0)	12(9.2)
保健組織活動	自信あり	68(60.2)	17(56.7)	23(56.1)	62(60.8)	13(76.5)	72(57.1)	11(84.6) *	74(56.9)
	自信なし	45(39.8)	13(43.3)	18(43.9)	40(39.2)	4(23.5)	54(42.9)	2(15.4)	56(43.1)
人間関係	自信あり	102(90.3)	27(90.0)	37(90.2)	93(90.2)	15(88.2)	114(90.5)	12(92.3)	117(90.0)
	自信なし	11(9.7)	3(10.0)	10(9.8)	10(9.8)	2(11.8)	12(9.5)	1(7.7)	13(10.0)

△: p < 0.1, *: p < 0.05, **: p < 0.01, *** = p < 0.001

ないものは13名 (72.2%) が「保健教育」を不得意であると回答していた。「健康教育」に自信がないと回答したものは、「保健教育」を不得意とする割合が有意に高かった ($p=0.000$)。また、「保健教育」が得意と回答したものでは、「保健組織活動」に自信ありが38名 (45.8%) で、自信なしが14名 (24.6%) であり、「保健組織活動」に自信があるものほど「保健教育」が得意と回答する割合が有意に高かった ($p=0.011$)。

さらに、「保健室経営」を不得意と回答したものでは、「健康相談活動」に自信ありと回答したものが6名 (5.5%) で、自信なしが4名 (18.2%) であり、「健康相談活動」にも自信がない割合が高い傾向にあった ($p=0.062$)。

「健康診断」を得意と回答したものでは、「保健組織活動」に自信ありが26名 (31.3%) で、自信なしが10名 (17.3%) であり、「保健組織活動」に自信がある割合が高い傾向にあった ($p=0.067$)。また、同様に「人間関係」に自信ありが35名 (27.8%)、自信なしが1名 (7.1%) であり、「人間関係」に自信があると回答する高い傾向にあった ($p=0.080$)。

8. 養護教諭の取得している資格と職務に対する自信度の関係

有資格と職務自信度との関係は、表11のとおりであった。

保健師免許を有している養護教諭では、「保健組織活動」に自信ありと回答したものが11名 (84.6%) であったのに対し、保健師資格がないもので「保健組織活動」に自信があるものは74名 (56.9%) であり、保健師資格を有しているものは「保健組織活動」に自信ありと回答する割合が有意に高かった ($p=0.046$)。

また、養護教諭2種の免許を有している養護教諭は、「救急処置」に対する自信があると回答したものが28名 (68.3%) であったのに対し、養護教諭2種以外の資格を有しているものは「救急処置」に対する自信ありと回答したものが83名 (82.2%) であり、養護教諭2種のものは「救急

処置」に対する自信がないと回答する割合が高い傾向にあった ($p=0.069$)。

反対に看護師免許を有している養護教諭は、「救急処置」に自信ありと回答したものが16名 (94.1%) であったのに対し、看護師免許を取得していないものは自信ありと回答したものが95名 (76.0%) であった。その結果、看護師免許を取得している養護教諭の方が「救急処置」に自信があると回答する割合が高い傾向にある ($p=0.074$) ことがわかった。

全体的には、どの資格であっても自信があると回答した割合が高かったのは「保健室経営」で、割合が低かったのは「保健組織活動」であった。

9. 学校種別と得意な職務および不得意な職務の関係

小学校で勤務する養護教諭と中学校で勤務する養護教諭の得意な職務を比較検討した結果、表12のとおり、小学校では「保健管理」について得意と回答したものが27名 (36.0%) であったが、中学校では6名 (13.6%) であった。小学校に勤務する養護教諭の方が、「保健管理」について得意と回答する割合が有意に高かった ($p=0.009$)。

また、「救急処置 ($p=0.073$)」や「健康診断 ($p=0.073$)」、「保健教育 ($p=0.089$)」においても、中学校よりも小学校に勤務する養護教諭の方が得意と回答する割合が高い傾向にあった。

どの教育段階においても、得意と回答したものがもっとも多かったのは「健康相談活動」であり、それぞれ、小学校では38名 (50.7%)、中学校では25名 (56.8%)、高等学校では12名 (70.6%) であった。得意な職務では、どの教育段階でも上位3番までに「健康相談活動」や「保健教育」、「保健室経営」が含まれていた。

反対に不得意な職務では、表13のとおり、「保健組織活動」が小学校では41名 (57.7%)、中学校では16名 (39.0%) のものが不得意であると回答しており、小学校の方が不得意と回答する割合が高い傾向にあった ($p=0.056$)。さらに、どの教育段階においても、不得意と回答したものが

表12. 養護教諭の勤務校別の得意な職務 n=119

	小学校	中学校	
救急処置	23(30.7)	7(15.9)	p=0.073
健康診断	23(30.7)	7(15.9)	p=0.073
保健管理	27(36.0)	6(13.6)	p=0.009
保健教育	34(45.3)	13(29.5)	p=0.089
健康相談活動	38(50.7)	25(56.8)	
保健室経営	28(37.3)	12(27.3)	
保健組織活動	9(12.0)	3(6.8)	
その他	4(5.3)	5(11.4)	

表13. 養護教諭の勤務校別不得意な職務 n=112

	小学校	中学校	
救急処置	12(16.9)	10(24.4)	
健康診断	1(1.4)	0(0.0)	
保健管理	8(11.3)	9(22.0)	
保健教育	13(18.3)	10(24.4)	
健康相談活動	13(18.3)	6(14.6)	
保健室経営	4(5.6)	5(12.2)	
保健組織活動	41(57.7)	16(39.0)	p=0.056
その他	4(5.6)	3(7.3)	

表14. 小中学校・高等学校と得意な職務 n=136

	小中学校	高等学校	
救急処置	30(25.2)	8(47.1)	p=0.060
健康診断	30(25.2)	5(29.4)	
保健管理	33(27.7)	4(23.5)	
保健教育	47(39.5)	5(29.4)	
健康相談活動	63(52.9)	12(70.6)	
保健室経営	40(33.6)	7(41.2)	
保健組織活動	12(10.1)	0(0.0)	
その他	9(7.6)	0(0.0)	

表15. 小中学校・高等学校と不得意な職務 n=128

	小中学校	高等学校	
救急処置	22(19.6)	3(18.8)	
健康診断	1(0.9)	1(6.3)	
保健管理	17(15.2)	0(0.0)	p=0.087
保健教育	23(20.5)	4(25.0)	
健康相談活動	19(17.0)	1(6.3)	
保健室経営	9(8.0)	1(6.3)	
保健組織活動	57(50.9)	10(62.5)	
その他	7(6.3)	1(6.3)	

もっとも多かったのは「保健組織活動」であった。それぞれの割合をみると、小学校では41名(57.7%)、中学校では16名(39.0%)、高等学校では10名(62.5%)であった。

小中学校と高等学校で養護教諭の得意・不得意な職務を比較検討した結果は、表14・表15のとおりであった。「救急処置」を得意と回答したものは小中学校では30名(25.2%)、高等学校では8名(47.1%)であり、高等学校に勤務する養護教諭の方が「救急処置」を得意とする割合が高い傾向にあった(p=0.060)。

次に「保健教育」や「健康相談活動」が不得意な職務として多く挙げられており、この2項目では得意および不得意が2極化し、どちらも多いことがわかった。

V. 考察

1. 養護教諭の教育背景の学問分野(看護学系とその他の学問系)別の職務に対する満足度

職務に対する満足度は71.6%の養護教諭が満足と認識していることが明らかになった。満足度については、2009年度の豊島他³⁾による調査結果では、満足していると回答した養護教諭の割合は73.3%を示しており、A県の養護教諭の満足度の割合とは大差なく、7割を超える養護教諭が現在の職務に対して満足感を持っていることが明らかになった。

満足度を看護学系とその他の学問系で比較すると看護学系は満足(75.6%)と回答したものがその他の学問系(68.2%)よりも多かったが、一方で不満足と回答した看護学系(13.3%)もその他の学問系(5.9%)よりも多かった。このことより、看護学系は満足と答えたものも多いが、不満足と答えたものも多い結果となっていた。しかし看護学系とその他の学問系においては満足度と関連ある項目はみあたらなかった。満足感の主観的なものであり、個人的心理的側面が強く、養護教諭の役割遂行において価値をどのように認識しているかによって違いがでるのではないかと考えられる。

2. 養護教諭の教育背景の学問分野(看護学系とその他の学問系)別の職務に対する自信度

養護教諭の職務に対する自信度は、看護学系と

その他の学問系で比較検討を行ったが有意差は認められなかった。

満足度と自信度の関係においては、養護教諭の職務に対して満足しているものは、「健康相談活動」や「保健室経営」、「人間関係」に自信があるという関係が見られた。「人間関係と満足度」の関係は豊島他³⁾の研究でも明らかにされており、満足度は個人的心理的側面が強く主観的なものであっても、職場における人間関係は養護教諭の役割遂行において重要な要因になっていると考えられる。このことから養護教諭の養成に当たっては、人間関係論に関する知識および技術の習得をより充実していくことが望まれる。

看護師免許を取得している養護教諭は、「救急処置」に自信があると回答する割合が高い傾向 ($p=0.069$) にあり、養護教諭2種の免許を取得している養護教諭は、「救急処置」に対する自信が他よりも低い傾向 ($p=0.074$) にあることが明らかになった。これは養成課程での履修内容から当然の結果であるとも言えよう。得意な職務において看護学系とその他の学問系では有意差は見られなかったが看護学系では「救急処置」が上位に位置しているのに対し、その他の学問系では「保健室経営」が上位にあった。看護学系の場合は看護学の専門教育の中で「救急処置」に対する技術教育が位置付けられていることが影響していると考えられる。しかし、看護学系でも17.4%の養護教諭が、その他の学問系においては22.1%の養護教諭が「救急処置」に自信がないと認識していた。

学校現場においては、救急処置では、軽微な傷病に対する処置と医療機関につなぐ必要がある緊急・応急処置がある。後者については看護専門職者のひとりとして自ら担当し、適切に遂行しなければならないことへの困難さが自信のなさにつながっていると考えられる。

下村⁴⁾の先行研究によるとA県の養護教諭の救急処置に対する研修への参加意欲は93%と高く、希望する研修内容や方法については、保健室でよく遭遇する事例や基本的な研修、外科・整形外科疾患への対処等、実習形式の研修を希望している

と述べている。このことから、養護教諭の養成にあたっては、学校現場で活用できる看護基礎教育のあり方が求められ、看護学の中でも養護教諭に特化した看護の知識や技術を工夫した授業展開を行う必要があることが示唆された。

3. 養護教諭の経験年数と職務自信度の関係

経験年数と職務に対する自信度においては、「保健室経営」に自信ありと答えたものは、経験年数11年以上である場合が有意に高く ($p=0.031$)、「健康相談活動」に自信がありと答えたものは、経験年数が11年以上である場合が高い傾向にあった ($p=0.060$)。豊島他³⁾の先行研究によると、「養護教諭の自己効力感には、経験年数、実践検証、養護教諭の職務の満足度、職場の人間関係が影響を与えていた。」と述べられており、本研究においても職務への自信度は経験年数が増加すると高まることが明らかになった。

さらに、経験年数別に「救急処置」をみると、10年以下と11年以上の経験年数をもつ養護教諭では、10年以下では約25%が、11年以上でも約21%が自信なしと回答している。看護学をベースとした養護教諭にかかわらず、経験年数が自信度に影響していることがわかる。

今日、養護教諭の看護力に対する不安や弱体化が言明されており、養護教諭の看護力不足が課題となっている。「救急処置」について全体で21.7%の養護教諭が自信がないと答えており、さらに18.9%が不得意であると回答している。看護力の向上にむけた取り組みが、今後の養護教諭養成課程や現職研修における課題であると考えられる。

平成9年の教育職員養成審議会答申⁵⁾によると、養護教諭が役割を確実に果たすことができる資質能力として、教育職及び専門職としての視点や時代がいかに変化しようとも、いつの時代にも変わらず必要な資質能力及び変貌する現在社会に適切に対応できる資質能力をあげており、養成段階⇔採用段階⇔現職研修と研修によるステップアップの必要性があげられている。

現在、教員の研修については教育公務員特例法

において、初任者研修(23条)、10年次研修(24条)が定められている。しかし養護教諭の場合は法定研修でないため、各県の実情にあわせて実施されているのが現状である。A県において平成23年度の養護教諭の研修は新規採用者研修(15日間)、2年次研修(5日間)、10年次研修は該当者がいなかったため実施されていない。平成22年度の10年次研修は11日間が実施されている⁴⁾。

研修内容としては一般教員と共通内容のほか、養護教諭専門研修としては新規採用研修では、健康診断を生かした保健管理、保健指導と保健学習、模擬授業及び学習指導の検討、配置校における検証等が実施されている。2年次研修としては授業づくりや模擬授業が中心の研修となっている。10年次研修では保健教育及び保健管理、アレルギー疾患に関する内容、保健指導や模擬授業について実施されている⁶⁾。このように、A県の現行の現職研修カリキュラムでは多様化する心身の健康課題や養護教諭の新たな役割等への内容が中心となり、救急処置についての研修は含まれておらず十分とはいえない。また、この傾向は全国的にもみられ、その結果が救急処置に自信のない養護教諭が約5人に1人いる結果となっていると考える。

4. 養護教諭の学問分野別の得意および不得意な職務

1) 養護教諭の学問分野別の得意な職務

看護学系とその他の学問系で、得意とする職務内容を比較してみると、有意差は見られなかった。しかし、得意であると回答した割合が多かった順をみると看護学系では「救急処置」がその他の学問系と比べて上位であった。一方、その他の学問系が看護学系より得意と認識している割合が高い傾向にあった項目は、「保健室経営(p=0.099)」であった。

また、養護教諭の職務に対する自信度と得意の関係では、「健康教育」に関する項目で自信があると答えたものほど「保健教育」を得意とする割合が有意に高かった(p=0.004)。また、「健康教育」

に自信がないと回答したものは「保健教育」を不得意とする割合が有意に高かった(p=0.000)。

学校保健の領域は保健教育と保健管理、そして保健組織活動によって構成され、保健教育は保健学習と保健指導で構成されている。学校での健康教育とは、保健教育、安全教育、食育教育を包括したものであるが、保健教育と健康教育を同義に捉えている可能性が考えられる。

2) 養護教諭の学問分野別の不得意な職務

看護学系がその他の学問系よりも不得意と認識しているものでは、「保健管理(p=0.055)」に有意差がみられた。また「保健室経営」に自信があると回答したものは「健康診断」を不得意とする割合が有意に低かった(p=0.008)。

また、「健康診断」に自信があると回答したものは、「保健室経営」を不得意と回答するものが少ない傾向にあった(p=0.062)。「健康診断」を得意と回答したものは、「保健組織活動(p=0.067)」や「人間関係(p=0.080)」に自信があるものが多い傾向にあった。

「保健室経営」と「健康診断」の関係において、「健康診断」に自信があるものは「保健室経営」を得意とする結果であったことは、保健室経営=健康診断と認識している傾向があるのではないかと考えられる。

「健康診断」の実施においては教職員や学校医・学校歯科医等との連携・協力を必要とする項目だけに、「健康診断」が得意と答えたものは「組織活動」や「人間関係」など協働することを得意とし、自信がある傾向が見られたのではないかと考えられる。

3) 養護教諭の役割遂行における満足度に関する職務

今回の研究では、学校において養護教諭に求められる役割として7つの職務を検討した結果、学校内でもっとも重視されている項目が「健康相談活動」であることが明らかになった。また、「健康相談活動」は養護教諭が得意な職務であると回答した割合がもっとも多く、さらには満足度と関係があった。「健康相談活動」は経験年数が高い

ほど自信がある傾向がみられ、基礎的な学問を基盤に経験の中でより専門性が培われていく職務内容ではないかと考えられた。養護教諭の職務満足度をさらに高めていくためにも個々の児童・生徒へ関わっていく体験の中での学びと年々、多様複雑化する相談内容、こどもたちのもつ課題への対応について、より専門性を高めながら支援していくためには「救急処置」と同様に新たな課題にも対応できる実践的指導力の育成が望まれる。

養護教諭がもっとも自信がないと回答した職務は「保健組織活動」であり、不得意と回答する養護教諭の割合も高く、あまり重要な職務として認識されていない現状が明らかになった。学校保健実務必携⁷⁾によると「学校保健に関する組織活動」の中で学校保健運営組織には学校保健委員会、地域学校保健委員会、児童生徒保健委員会があげられている。その活動内容として、校内の推進体制、家庭との連携、地域の関係機関・団体との連携および学校間の連携などがあり、養護教諭に求められる重要な職務の1つである。今回の調査では「保健組織活動」に対する自信度は保健師資格をもつ養護教諭が有意に高いことが明らかになった。このことは、保健師教育の中で組織活動の意義や方法論が保健師の専門的視点として学習内容に組み込まれていることが関係していると考えられる。

このようなことから、多様化する時代背景に適応し、児童・生徒の抱える課題に対応できる資質能力をもつ養護教諭を養成するためには、救急処置など看護のもつ専門的な知識と技術、そして組織活動や地域連携など公衆衛生看護学の特性を組み込んださらなる養護教諭養成カリキュラムの充実が望まれる。

VI. 結論

1. 養護教諭の仕事に関する満足度は全体で7割を超える養護教諭が仕事に対して満足感を持っていた。満足度については看護学系、その他の学問系での有意差は見られなかった。
2. 役割遂行における自信度については、養護教

諭自身の認識度であるが、満足度や自信度は役割遂行において重要な要因であると考えられる。自信度の比較においては、看護学系がその他の学問系より高い結果を示した内容は「救急処置」と「保健組織活動」であったが、その他の学問系との間に有意差がみられなかった。

3. 「健康教育」、「健康相談活動」、「保健室経営」についてはその他の学問系の養護教諭が看護学系よりも自信度が高い結果であったが、有意差はみられなかった。
4. 学校で最も重視している職務内容は、「健康相談活動 (28.4%)」、「保健室経営 (26.9%)」が多く、看護学系とその他の学問系において有意差は見られなかった。
5. 最も不得意とあげている「保健組織活動」については、看護学系は63.0%の養護教諭が「自信がある」と答えているのに対し、その他の学問系の養護教諭は55.8%であったが有意差は見られなかった。しかし、保健師の免許を有する養護教諭については有意差がみられた。
6. 看護系短期大学における養護教諭養成は、看護学科において養護教諭2種、専攻科において養護教諭1種が取得できるカリキュラムとなっている。「救急処置」と「保健組織活動」に強みのある看護教育の特性を生かし、養護教諭の専門性を考えて、児童・生徒の実態に応じて対応できる能力を育成するようにカリキュラムを充実する必要がある。
7. 養護教諭としての基本的な資質・指導力が向上し得るためには、現職研修の体制とカリキュラム内容の充実が要望される。変貌する現代社会において養護教諭の職務内容は多岐にわたり、学校現場の抱える課題に対応できるよう、実践的指導力の育成が求められる。

VII. 研究の限界と今後の課題

本調査は、アンケート用紙回収率の低さから研究のデータの偏りがある可能性があり、研究の有効性には限界が見られる。

また、教育学系の回答者が11名と少数であったため、看護学系と教育学系の比較・検討をすることができず、看護学系とその他の学問系の比較検討にとどまった。今後はさらに調査対象者を増やして教育学系も含めた学問別の養護教諭の役割に関する検討を深めたい。

謝辞

本研究にご協力頂きました A 県の養護教諭の皆様には感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会答申スポーツ・青少年分科会健康・安全部会答申：「学校保健の充実を図るための方策について」，平成20年1月17日。
- 2) 平成20年度保健体育審議会答申：<http://www.ypec.ed.jp/syonin/13.youkyou.pdf>
- 3) 豊島幸子，吉田享：養護教諭の職務への自己効力感の要因—自己効力感尺度（試案）を用いて—，日本養護教諭教育学会誌，Vol.12，No1，2009，77-86。
- 4) 下村美佳子：養護教諭の救急処置に関する調査研究—「検診」に対する養護教諭の自信度と必要性の調査結果から—高知女子大学看護学会誌，Vo31. No1，2006，56-64。
- 5) 文部科学省：教育職員養成審議会第1次答申，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/yousei/toushin/970703.htm，1997。
- 6) A 県教育委員会教育センター：平成23年度 A 県公立小学校及び中学校並びに県立学校新規採用養護教諭研修の概要，平成23年度2年経験者研修研修（養護教諭）概要，平成22年度 A 県公立小学校及び中学校並びに県立学校10年経験者研修（養護教諭）の概要，<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/nenzikensyuu.html>，2011。
- 7) 新訂版学校保健実務必携：学校保健・安全実務研究会，第一法規株式会社，2007。

Original Paper

Study on satisfaction and confidence for role accomplishment of the school nurse.

Chieko IKEBATA^{1*}, Akiko OONISHI², Ichiko KAJIMOTO³ and Mieko YAMASAKI⁴

Abstract: (I clarify) The purpose of this study is to clarify the present conditions and recognition about the role accomplishment of the school nurse. It was intended to examine the way and directionality of the school nurse training based on nursing basic education.

Therefore I mailed unsigned inventory survey to 396 incumbent school nurses of the A prefecture and had a school nurse reply it and obtained the effective answer of 143 people.

The school nurse satisfied with duties was 71.6% in total. As for the base of other education that 75.7% were satisfactory as for the base of the nursing science, 68.2% were satisfactory, but the significant difference was not recognized. When I was satisfied with work, significant difference was seen when confident in “health consultation activity (p=0.010)” and “health room management (p=0.011)” and “human relations (p=0.000)”. When there were the years of experience more than 11 years, significant difference was seen with being confident of “health room management (p=0.031)”. As for the confidence degree for “health organization activity”, significant difference was recognized in the owner of the community health nurse license (p=0.046). The thing that first aid did not have confidence was 21.7% of the whole, and nursing science was 82.6%, and other education bases were 77.9%. The significant difference was not recognized, but it was revealed that nursing science was slightly high.

Key words: school nurse, role accomplishment, satisfaction, confidence

^{1*} Kochi Gakuen College, Department of Nursing, Email:ikebata@kochi-gc.ac.jp

² Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing, Email: aonishi@kochi-gc.ac.jp

³ Kochi Gakuen College, Department of Nursing, Email: ikajimoto@kochi-gc.ac.jp

⁴ Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing, Email: myamasaki@kochi-gc.ac.jp

